

声

「国葬」には反対です。安倍元首相が「国葬」との記事を読み、驚きました。彼が、森友学園、加計学園、桜を観る会などなど、国会で嘘をついてきたことは広くみんなが知るところです。証拠の隠蔽や改竄などを官僚にやらせ、近畿財務局職員の赤木俊夫さんを自殺に追い込むなど、許されないことを引き起こしてきた最高責任者です。その他にも多々ありますが、ここでは二つのことについて述べたいと思います。

その一つは、生活に関わる日本の現状です。

今年の7月19日付の新聞、朝刊トップに、「身銭切る命の相談員」―無償で電話相談、研修費自己負担・・・の記事が掲載されました。近年、生活苦やストレスによる自殺が増え、「いのちの電話」などによる相談所のみなさんの仕事が大変になって来ていることは知っていました。しかし、その仕事ボランティア精神とは言え、無償で行われているとは、研修が自己負担だとは、全く知りませんでした。増税の度にその税は社会福祉に使用するとなってきたことが、本当にそうだったのでしようか？ 森友学園・桜を観る会・加計学園などには問われることなく税金が使われ、「いのちの電話」など国民の命や生活を守る取り組みには国が必要な対策を講じるのとなく、庶民の好意におんぶしているこの状況は、「先進国」の名に恥じることです。

二つ目は、2012年安倍政権が発足して一番初めにやったことは、民主党政権が進めて来た「高校無償化制度」から、在日朝鮮人の子どもたちが通う朝鮮学校だけを除外したことでした。その後も「幼保無償化」、コロナ禍による「学生支援緊急給付金」などから朝鮮学校を除外し続けています。*

※ こうした日本の民族差別は国連から何度も勧告を受けても変わらず、安倍政権になってひどくなったと認識しています。「民族共生社会」でなく、蔑視・差別の行動・・・ヘイトクライムが横行する社会をつくりだしました。

以上を見ただけでも、安倍元首相が「国葬」に値する人物とは言えません。という訳で私は「国葬」に反対なのです。国民の税金を使って行うべきことではないと考えます。

これからの政治は子どもたち、若者たちのお手本となるような政治を望んでやみません。(松井)

声

安倍元首相の「国葬」はおかしい。安倍元首相が凶弾に倒れてから一週間。理由はどうであれ、あつてはならない事件だったが、その後、メディアは安倍氏の功績や、惜しむ声だけを報道してきたように感じた。しかし、森友・加計・桜などの疑惑に国民の多くが納得していないし、安保法制など国会を軽視したやり方への批判も根強い。決して国民は安倍氏の功績のみを見てはいない。そんな評価の分かれる人に「国葬」はおかしい。在任期間が最長と、安倍氏の功績を讃えたいのなら、「自民党葬」でやればよい。貴重な国民の税金をこんなことに使う事を安倍氏もきつと望んではいけないだろう。(林)

2022

ぎふ平和のつどい

~~~~~  
11月3日(祝)  
13:30~16:00  
~~~~~

岐阜文化センター
2F・小劇場

講演: 安田菜津紀
(ジャーナリスト)

公演: 沖縄県人会
琉球舞踏グループ

事務局:
「岐阜・九条の会」



~~~~~ 6月26日の映画「憲法九条」を観て語り合う会に出された感想



最初の「憲法は米国のおしつけ」というセリフが気になった。おしつけではありませんよ。

現在の九条を維持し、どう生かしていくかが大切なのね。この映画を見て知らなかったことが分かって良かったです。この映画をもっと沢山の人たちに見てもいいです。

この映画を見て自分が知らなかったことが分かったこともあって観て良かった。もつと多くの人にこの映画を見てもらいたい。

良い作品に出会えました。いろいろ考えることができました。世界平和をあくまで目指して日本は九条をかざして先頭に立つべき時です。地域でこんな会が沢山できるといいですね。

十二人のパネラーの真剣そのものの迫力に圧倒され、このような本音を出し合う雰囲気は現在どこにあるのか知りたく思いました。九条について観念的にしか捉えていなかった自分が恥ずかしく、不勉強であったことを悔いています。現政治の九条改憲論、絶対保持、両論について、自身の本音本心と理念上の思いとが交錯して悩むことしきり・・・です。

現在の九条を維持するのか？ 改変するのか？を若者の姿を通して討論する映画ができて広まるいいと思います。双方の意見をじっくり聞いて、どのようにして平和をまもるのか、一人ひとりが判断するしかないと思います。

憎しみの連鎖を断ち切る勇気を持ちたいです。国レベルで、この映画のような話し合いができるといいですね。